

松が谷高校の生徒の皆さんへ ー校長メッセージー（6）（7月3日）

「フランクリンの経験則」について

6月29日（月）から全校生徒の皆さんが登校するようになりました。6月1日（月）の学校再開から1ヶ月が経ち、校舎に生徒の皆さんの元気な声が響くようになりました。毎朝、明るく挨拶してくれる生徒の皆さんを、笑顔の健康チェックで迎えてくださる先生方。本当に微笑ましい光景です。感染防止に向けまだ油断できない日々が続きますが、少しずつ学校本来の姿に戻りつつあることを実感しています。

さて、本校では、学校全体での生活指導充実への取り組みとして、

- ① 交通ルールの遵守
- ② 挨拶の励行
- ③ 頭髪・身だしなみ等に関する校則の遵守
- ④ 時間厳守
- ⑤ チャイム着席等の授業規律の確立

という5つの目標達成に向けての指導を組織的に行っています。しかしこのような目標は、生徒の皆さん一人ひとりの心がけや自覚、保護者の協力、教職員の様々な指導の実践が組み合わさって初めて実現するものと考えています。何事も意識的に行うことによって、成果が上がるものと期待しています。

政治家であり科学者でもあり、アメリカ合衆国の独立宣言を起草した委員の一人であったベンジャミン・フランクリン（Benjamin Franklin）は、人生において目標を明確にすることは絶対に必要であると考え、その目標を達成するための指針を作りました。彼は道徳的項目を自分なりに「節制、沈黙、規律、決断、節約、勤勉、誠実、正義、中庸、清潔、平静、純潔、謙譲」の13項目に分類し、それをすべて習慣化するために、毎週このうち1項目を重点化しました。1年は52週なので、1テーマにつき年間4回繰り返すこととなります。フランクリンは、この方法で13の徳を身に付けたと云われます。

これはフランクリンの経験則としてよく知られていますが、生徒の皆さんにも大いに参考になるのではないのでしょうか。今年度本校で取り組んでいる「挨拶の励行」や「時間厳守」などは、誰がどこでも実行できる普遍性のある経験則です。今年度は、ぜひ生徒の皆さん一人ひとりが自分なりの重点目標を設定してみることをおすすめします。決して口外する必要はありません。1年が終わってみると、皆さんの何かが確実に変わっているはずですよ。

令和2年7月3日

都立松が谷高等学校長

博田 英明